

## 第4章 高梁市が目指す将来都市構造の検討

### 4-1. まちづくりの基本方針・目標

#### ■まちづくりの基本方針

本市では、人口減少や超高齢社会に対応するため、高梁市新総合計画 2021-2030 が描く将来都市像『健幸都市たかはし』のもと、以下のとおりまちづくりの基本的な方針を定め、課題の解決に取り組んでいきます。

### 『備中高梁の歴史・文化を受け継ぐ持続可能なまちづくり』

#### ■まちづくりの目標

既存の都市拠点や地域拠点を中心に、地域の歴史・文化・伝統を継承しつつ、市街地の集約化を推進するとともに、各拠点の効率的・効果的なネットワーク化を強化していきます。

#### 地域の個性を活かした持続可能で快適な居住空間の確保【人口密度の維持】

著しい人口減少への対応に向けて、各地域の個性を活かし、また、個々の多様な暮らしを尊重しつつ、高い利便性が得られる都市拠点や地域拠点などに時間をかけてゆるやかに居住を誘導・集約し、持続可能で快適な居住空間の確保を図ります。

#### 日常生活を支える利便性の確保【都市機能の集積】

各地域の日常生活に必要な都市機能を効率的に維持していくため、既存ストックの有効活用や公共施設の再編を含めた都市機能の集約を図り、各地域の生活拠点の維持と強化を推進し、住み慣れた身近な地域における日常生活の利便性の確保を図ります。

#### 城下町の歴史・文化を活かした中心市街地の活性化【拠点性の強化】

県中西部の中核的な役割を担う備中高梁駅周辺については、市域全体を補完する子育て・教育・医療・福祉・商業・行政サービス等の広域的な都市機能の集約・強化を推進するとともに、観光振興や交流人口拡大の観点を含め、城下町の歴史・文化を活かした魅力ある拠点の強化を図ります。

#### 各地域を繋ぐ効率的・効果的な公共交通ネットワークの構築【公共交通の確保】

各地域の実状に応じたバス路線の再編と利用促進を図りながら、中心市街地と各地域拠点を効率的・効果的に繋ぐ公共交通ネットワークの構築を推進します。

#### 豊かな自然と調和した安全・安心なまちづくり【防災・減災】

災害の危険性が高い区域への居住の抑制や、防災・減災の観点に留意した計画的な土地利用の誘導を促すとともに、災害時の緊急輸送道路や避難路の強靱化対策、都市施設の耐震化を推進し、自然と調和した安全性の高いまちづくりに取り組みます。

### 4-2. 市域全体の将来都市構造

本計画では、都市計画区域を対象範囲としていますが、本市の都市計画区域は市域のごく一部に限定されています。

そのため、本計画において目指すべき「多極連携型・集約まちづくり」のあり方を定める上で、市域全体と都市計画区域の2つの視点から将来都市構造を検討することとします。

#### ～拠点の連携【公共交通ネットワークの構築】～

本市では、県下でも特に人口減少や少子高齢化が著しい現状への対策として、各地域の個性を活かした集約化を図りつつ、これらの地域拠点を繋ぎ連携する“多極連携型・集約まちづくり、歴史都市『備中高梁』”を将来都市構造の目標とし、長期的なまちづくりに取り組んでいきます。

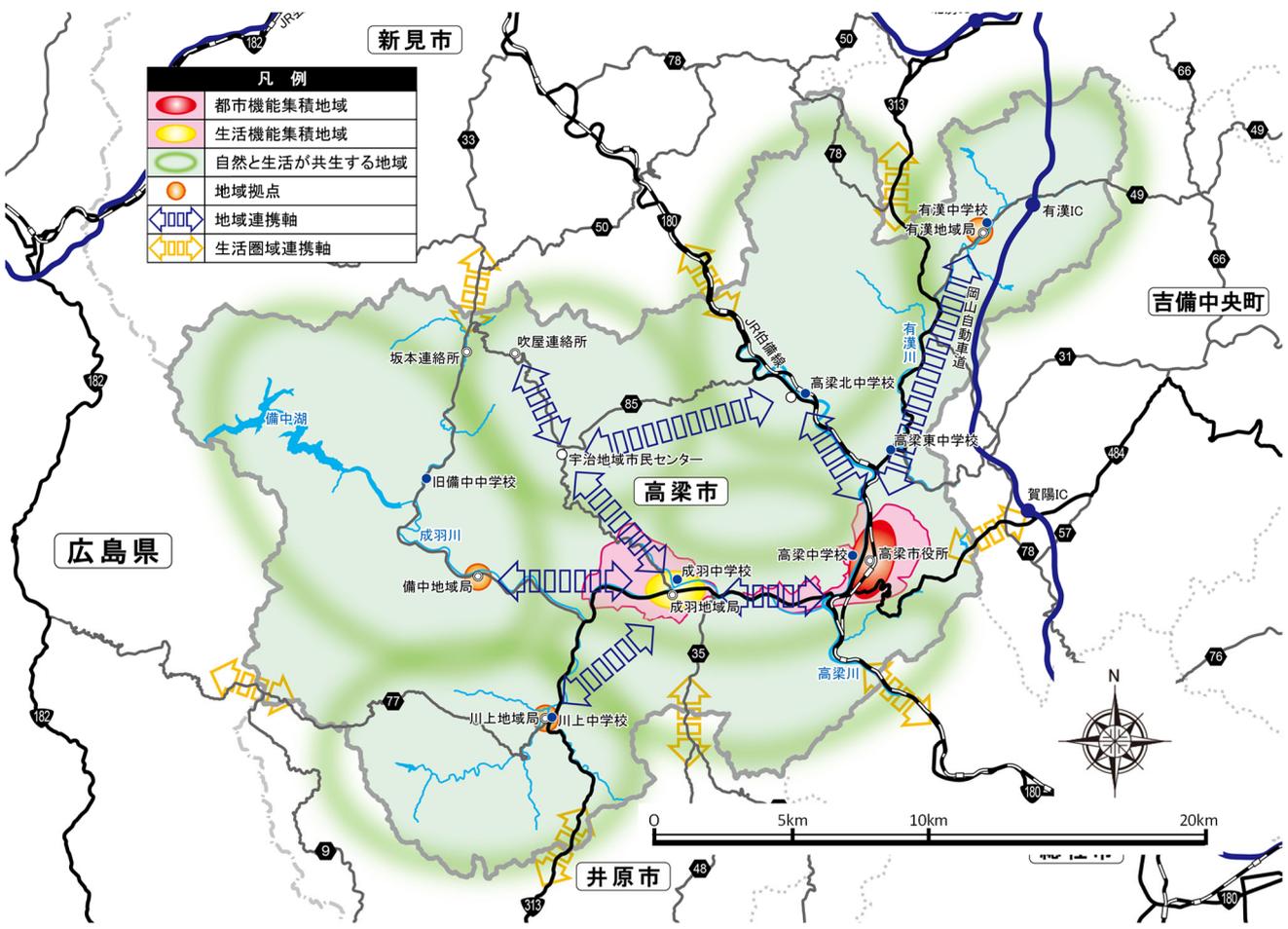
#### ～「小さな拠点」づくりによる生活利便性の確保【都市機能の集積】～

歴史的・地形的な背景から、集約型の市街地が形成されている高梁地区と成羽地区において、集積している都市機能の充実と強化を図るとともに、旧町の地域拠点においては、生活に必要な機能を集積し、地域特性を活かした「小さな拠点」づくりに取り組みます。これらの地域拠点を核に地域内外の相互連携を図り、日常生活の利便性を確保し、各地域拠点と高梁・成羽地区のネットワークを強化することで、市域全体の中核的役割と地域の暮らしを支えます。

### 【市域全体の将来都市構造】

地域の個性を繋ぐ、活力ある持続可能なまちづくり

～多極連携型・集約まちづくり、歴史都市『備中高梁』～

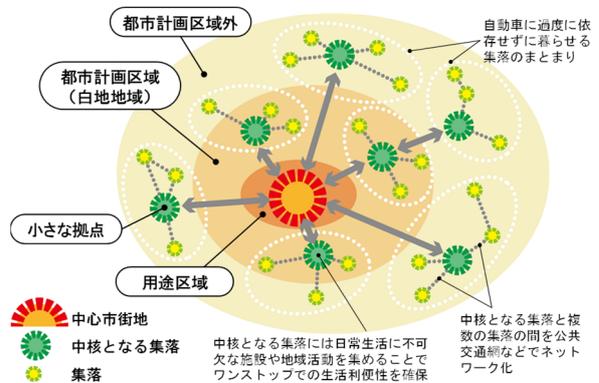


■各都市構造要素のまちづくりの方向性

都市構造要素	まちづくりの方向性
 <p>都市機能集積地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市計画区域（高梁地区）において、備中高梁駅周辺を核に形成される中心市街地に、行政・教育・医療・文化などの拠点施設が立地し、交通・商業・情報などの都市機能が集積しています。</li> <li>中心市街地の活性化を促進しつつ、地域内外の交流の核となる地域として、その役割を強化し、市全域の中核的役割を担い、地域の暮らしを支えます。</li> </ul>
 <p>生活機能集積地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市計画区域（成羽地区）において、成羽地域局等を核に、市西部の教育・福祉・文化活動を支える都市機能が集積しています。</li> <li>中心市街地の都市機能集積地域と連携・相互補完を図りつつ、その役割を強化し、市西部の中核的役割を担い、地域の暮らしを支えます。</li> </ul>
 <p>自然と生活が共生する地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>良好な自然に恵まれた地域で、地域拠点となる旧町の中心部を核としたまとまりのあるエリアによって農山村生活圏を形成する地域です。</li> <li>豊かな自然環境との共生を図りつつ、農山村生活圏における日常生活を支える拠点の強化を図ることで、地域の暮らしを支えます。</li> </ul>
 <p>地域拠点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集落が散在する地域において、地域住民の日常的な暮らしに必要な買物や行政サービスの機能等を集め、周辺の集落とのネットワークを確保した「小さな拠点」の形成を進めます。</li> </ul>
 <p>地域連携軸</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集積した都市機能によるサービスなどを利用するため、移動手段を確保し、市域全体における生活基盤の維持・向上を図ります。</li> </ul>
 <p>生活圏域連携軸</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内連携に加え、日常的に人の流入・流出が活発である周辺自治体との間で、生活圏としての連携をより強化するまちづくりを進めます。</li> </ul>

◇「小さな拠点」のあり方

- 地域住民の日常生活を支え、祭りや伝統文化等のコミュニティ活動や交流などを支援することで、田園や山里に点在する既存集落に住み続けられることを目指します。
- 地域住民の日常的な暮らしに必要な買物や医療等の都市機能を集めるとともに、周辺の集落とのネットワークを確保します。



### 4-3. 都市計画区域の将来都市構造

都市計画区域においては、中心市街地と地域拠点とを公共交通で結ぶとともに、多様な暮らしを尊重しつつ、利便性の高い都市拠点や生活拠点を時間をかけてゆるやかに誘導・集約し、持続可能で誰もが移動しやすく暮らしやすい多極連携型・集約まちづくりを推進します。

#### ■各地域の特性と方向性

地域区分の設定にあたっては、地域的なまとまり・つながりを尊重しつつ、また地理的・物理的状況から、以下の3つに設定します。

#### 【高梁地区】 高梁市街地：歩いて暮らせる城下町の情緒が漂うまちづくり

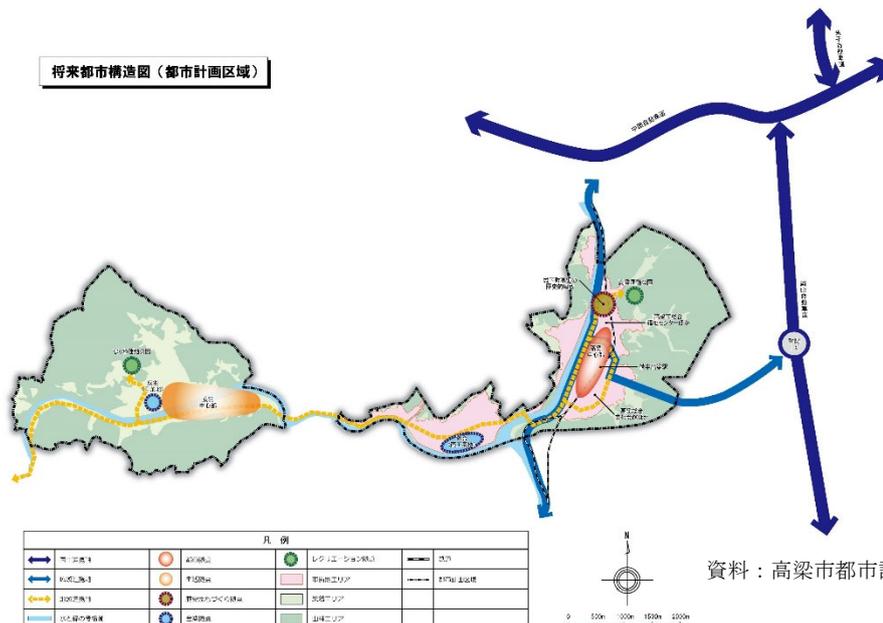
- ・市全域の生活や活力を支える重要な役割を担う高梁市街地は、城下町として形成されたエリアと鉄道駅の設置に伴い発展してきたエリアの2つに大きく区分されます。
- ・鉄道駅の設置に伴い発展してきたエリアは、「都市拠点」として位置づけ、中高層の建物を主体とした居住を進めると同時に、都市機能の集積、交通結節点の機能の強化、商店街を中心とした歩行軸の強化を図ります。
- ・城下町として形成されたエリアは、「歴まち拠点」として位置づけ、落ち着いたある城下町の風情が感じられる市街地を維持し、空き家を活用した移住・定住を促進し、低層住宅の広がる地域づくりを推進します。

#### 【高梁地区】 落合市街地：活力ある産業と暮らしが融合するまちづくり

- ・高梁市街地と成羽地区の中間に位置する落合市街地は、大型商業施設や工業施設等による活性化に伴って人口が増加しています。こうした中で、「産業拠点」として位置づけ、用途の純化(住宅と商工業施設の混在の抑制)を図りながら、良好な居住環境の形成を目指します。

#### 【成羽地区】 陣屋町の風格を活かした市西部の拠点となるまちづくり

- ・備中神楽発祥の地である成羽地区は、古くから陣屋町として栄え、高梁地区とは異なる歴史・文化をもって発展してきました。
- ・市西部の中核的役割を担う成羽地区を「生活拠点」として位置づけ、都市機能・公共交通の連携した核を形成します。また、近年、北側へ広がっている居住地の拡散を抑え、人口密度の低下を防ぎます。



■各都市構造要素のまちづくりの方向性

都市構造要素		まちづくりの方向性
エリア	市街地エリア	・用途地域の指定エリアで、用途に応じた適切な土地利用の規制・誘導等を図り、秩序ある市街地の形成を推進します。
	集落エリア	・農用地を含め農山村集落が存在するエリアで、自然に囲まれた良好な農山村集落環境の保全・維持を推進します。
	山林エリア	・市街地等に隣接して豊かな自然環境が残るエリアで、山林を主体とした良好な自然環境の保全・維持を推進します。
拠点	 都市拠点	・市街地エリアにおいて、備中高梁駅周辺を核に都市機能が集積する区域であり、本市の中心市街地として、さらに、県西部の地域都市拠点として、高次の都市機能の充実・強化を図ります。
	 歴まち拠点	・市街地エリアにおいて、城下町時代からの旧市街地を中心に、武家屋敷や町家、寺院等が残され、城下町の風情を色濃く残している区域であり、歴史的な町並みの保全と活用の促進を図ります。
	 生活拠点	・都市計画区域（成羽地区）において、陣屋町の面影を残しつつ、市西部の生活を支える医療・福祉・商業・教育等の都市機能が集積する市街地であり、都市拠点と連携・相互補完を図りつつ、市西部の中核的役割を担う拠点として、都市機能の維持・充実を図ります。
	 産業拠点	・落合市街地においては、商工業が集積する拠点として、既存機能の維持・強化を推進します。 ・成羽地区においては、工業が集積する拠点として、既存機能の維持・強化を推進します。
	 レクリエーション拠点	・高梁運動公園及びなりわ運動公園は、広域的なスポーツ・レクリエーション拠点として、既存機能の充実と活用の促進を図ります。 ・備中松山城は、観光レクリエーションの拠点として、歴史的景観の保全と活用の促進を図ります。
軸	 広域連携軸	・本区域と新見方面や岡山・倉敷方面を結ぶ国道 180 号、岡山自動車道賀陽 IC と繋がる国道 484 号を広域連携軸と位置づけ、都市間連携の強化を推進します。
	 地域連携軸	・都市計画区域の各拠点や隣接市町を結ぶ幹線道路を地域連携軸と位置づけ、都市計画区域内や隣接市町との連携強化を推進します。
	 水と緑の骨格軸	・都市計画区域を流れる高梁川と成羽川を水と緑の骨格軸として位置づけ、水と自然にふれあう場の充実を推進します。